

第1回 古河市景観賞受賞作品

募集期間 平成28年9月1日～10月31日

まちなみ建築部門



■ 古河市立古河第一小学校 赤門

赤門は、赤レンガを使用した建築物として大変価値のあるもので、歴史ある古河の教育を象徴するものであり、長年に渡り児童や地域住民から親しまれている。現在地に古河尋常小学校が明治37年10月に移転された際、建築され、以降、補修をしながら当時の姿を保存してきた。平成28年3月には門扉が復元されている。



■ 大久保邸 板塀

塀の材料は、栗の板で、表面には亀甲名栗(きっこうなぐり)という刃先が弧型の刃物で一つ一つ板の表面を加工する手法を使っている。最終的に六角形が重なったようにも見えるこの形の風合いは、小京都に認定されている古河市にふさわしい景観と言える。



第1回古河市景観賞表彰式

平成29年5月22日、第1回古河市景観賞表彰式が総和庁舎(本庁)特別会議室にて行われました。

まちづくり活動部門



■ クリーンクラブ

平成18年より、違反屋外広告物の撤去作業を行っている。



■ 古河史楽会

古河は城主大名の城下町において日本で唯一城跡や模擬天守すらない「城なき城下町」である。また、本丸跡には木製の碑が一本立つのみで説明板すらない。そんな中、古河史楽会では国交省や市役所と連携を取り、古河城の図面展示などを通して知名度上昇、市民の歴史意識向上と愛郷心育成を目的とした活動などを行っている。



■ 古河を美しくする会

古河の産土神である雀神社について、参拝する皆さんに清々しい思いと心豊かになっていただきたい、という願いから境内などを掃除している。

第2回 古河市景観賞受賞作品

募集期間 平成30年5月1日～7月2日

まちなみ建築部門



■ レストラン SUNROSE

昭和8年に建築された日本家屋をレストランとしてリノベーションし、当時の日本建築技術を駆使した良さと現在では手に入らない建築資材、建具を充分に残したデザインとなっており、旧日光街道繫米の歴史を物語っている。また、敷地内には樹齢100年を超える樹木が2本あり、古河市内の中にもありながら店内から観る風景は緑溢れる別世界の様である。



■ GALLERY&CAFE HYGGE(ミトベ写真館)

ミトベ写真館創業者の水戸部正三郎が昭和初期に古河市紺屋町に開業して以来、長い間営業してきた場所から西に20メートルの地に移転した。2016年2月に新たにGALLERY&CAFE HYGGE ミトベ写真館としてオープン、営業している。HYGGE(ヒュッゲ)とは、デンマーク語で、人と人とのふれあいから生まれる、暖かな居心地の良い雰囲気という意味の言葉である。設計者は、古河歴史博物館等を手掛けた故吉田桂二氏と同じ設計事務所である。



■ 古河鍛冶町 みらい蔵

元塩問屋として使用されてきた、歴史ある木造創りの建物を所有者である今城敏和氏から借用し、古河市の財産として活用すべく「合同会社古河鍛冶町みらい蔵」を立ち上げた。蔵を活用したまちなか再生事業による企画・運営を目指し、歴史の街「古河」にふさわしい、白の漆喰壁を基調に重厚な建物として保存された。現在、3店舗が入り、各々個性ある料理を提供し連日にぎわっている。



■ 大橋醤油店 諸味蔵

諸味蔵2棟(571.38㎡、419.01㎡)の中で、蔵と木桶に棲みついている微生物によって諸味を自然に発酵熟成させる天然醸造の醤油を造っている。阪神淡路大震災後、曳家をし、補修をした際、一部の七尺木桶(高さ・直径:210cm)を解体した。その時に弘化二年という刻印を見つけ、木桶は設置する建物の中で組み立てるので、諸味蔵は弘化二年以前に建てられたと推測する。土台と柱を固定せずに瓦の重みも利用することで、たわんだり傾いたりしながら地震の揺れを建物全体で受ける工法によって建てられている。



■ 株式会社めた屋 鮎甘露煮店

古河市内には200棟とも250棟とも数える様々な姿・形をした数多くの蔵がある。その蔵の宿場町に似合うものとして、老舗めた屋に蔵造り店(たな)を合せ、城下町古河にイメージすべく蔵を建設した。旧日光街道 古河城御茶屋口門址を曲り歴史博物館に向う文化の漂う街並に建っている。